

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 32, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun. 2026



水中を泳ぐハンドウイルカ *Tursiops truncatus* (Montagu, 1821)

横浜・八景島シーパラダイスにて撮影

にしむら ふたば
西村 双葉 (学芸員)

ハンドウイルカは南北両半球の熱帯域から温帯域に広く分布する鯨類(クジラの仲間)の一種です。国内での飼育数も多く、ショーでのジャンプの印象が強いかもしれませんが、野生下でもアクロバティックな行動が観察されます。成体の体長は1.9~3.8 mと、個体群によって異なります。背中の中ほどにある三角形の背ビレ、丸みを帯びた前頭部、クチバシのように伸びた口(吻)を持ち、典型的なイルカの外見をしています。

鯨類はその姿から魚類(特にサメ類)

と間違われることもありますが、私たちと同じ哺乳類であり、肺呼吸を行い、母乳で仔を育てます。魚類との違いは泳ぎ方にも見られ、魚類は尾ビレを左右に振って泳ぐのに対し、鯨類は尾ビレを背腹(上下)に動かします。このため、鯨類の尾ビレは左右方向に広がった形状をしています。また、呼吸は背側にある鼻を水面に出して行っています。水族館等で鯨類を見る時には、可愛らしい仕草だけでなく、泳ぎ方や呼吸の仕方にもぜひ注目してみてください。